

和地ひとみレポート No.174



平成26年度決算は賛成多数で認定。

変化を感じた決算だが、更なる前進が必要

■平成26年度決算は 賛成多数で認定

…9月1日から開催されていたH27年東大和市議会第3回定例会の会期中、平成26年度決算について審議する決算特別委員会が開催されました。2日間の特別委員会で審議が行われたあと、平成26年度の一般会計ならびに5特別会計の決算については賛成多数で認定されました。決算の内容は市報並びに市のホームページでも発表されますが、ここでは、他自治体が行っている『市民目線での決算報告』を参考に、私が作成した概要を報告させていただきます。

(裏面を参照ください)

■決算の内容は

…平成26年度の歳入(収入)は予算現額501億2,906万7,553円に対し、決算総額は492億5,303万6,045万円となり、対予算収入率は98.3%(前年度99.5%)。一方で歳出(支出)は予算現額501億2,906万7,553円に対し、決算総額は474億6,904万9,713円となり、対予算執行率は94.7%(前年度95.9%)となりました。前年度と比較し歳入は額にして3.7%増加でプラス17億4,777万9,122円。歳出も3.6%増加、額にして16億6,670万6,192円アップとなっています。また実質収支額については12億29万6,301円の黒字決算となりました。

…一般会計の歳入の基本となる『市税』の収入済額は約123億2,000万円で前年度より1.8%増加。その主な要因は人口が増加したことに伴い納税義務者が増えたこと。市民税(個人)は前年度と比較し約3,900万円増額。また、市民税(法人)は業績回復等により前年度より約9,626万円増額。更に固定資産税は新築家屋の増加等により前年度より約6,500万円の増額となりました。この固定資産税の収入増は地域の変化=新築の家が増えていることから伺える結果です。

…平成26年度の決算でも市は基金(貯金)を積み増しし、前年度末在高が約39億6,000万円だったところ、今年度末在高は約48億2,600万円と増加しています。今後、控えている学校給食センター建設、各種公共施設や都市インフラの老朽化への対応などを考えると、基金の額は増加したものの、安心できません。今後、これらの大型事業に対して市は市債(借金)で対応する予定です。平成26年度の決算内容は、時代に合った様々な事業の実施が見られましたが、まだ、見直しをした方が良い事業もありました。本当に市民が必要とする事業に財源を回せるよう、市は更なる事業見直しの英断をするべきだと思います。

■平成26年度決算についての私の討論

…平成26年度は、尾崎市政1期目の最終年度であり、その決算内容にも尾崎市長らしさが見られました。まず家庭廃棄物の有料化と戸別収集をスタートさせたことは、ごみの削減を促したとともに、今の時代に合った「受益者負担」の考えを実現化させ、大いに評価できることです。さらにこの事業については、市職員の皆様の御努力と準備により、当初想定していたよりもトラブルも少なく、スムーズにスタートさせられたことも、市民の理解を得るのに大いに寄与したと考えます。

…その他、高齢者の見守り強化、保育園の新たな開設などによる待機児童の解消に向けた取り組み、市民の健康を維持、向上させるための健康カレンダーの全戸配布などの施策の実施、学校の耐震化の推進、中央公民館の耐震化、そして中学生のアメリカンサマーキャンプの実施など、新たな取り組みは未来を担う子供、子育て世代、高齢者とあらゆる世代の市民ニーズの実現化に積極的に取り組んだ東大和市政の変化を感じさせるものでした。このように機を逃さず、以前よりも積極的な姿勢で新規事業にも取り組めたことは、尾崎市長の4年間で市内に醸成した前向きに挑戦するムードのたまものとも受けとめています。

…また、今後控えているさまざまな大事業に備え、当該年度でも基金の積み増しをし、最も重要な実質収支では黒字で決算を迎えた一方で、一定の期間の中で赤字になることが健全とされる単年度収支においては、平成23年度、24年度、25年度と黒字になっていたところを、当該年度では赤字。これは行政水準を上げ、市民にバランスよく還元したあらわれだと理解しています。

…しかし、平成26年度の決算内容を細かく見ると、前時代的な事業、流れの中で疑問を持たずに続けている前例踏襲的なものも見受けられます。また開かれた市政を目指す尾崎市政という観点から行政報告書を見た場合、内容が工夫された点はあったにせよ、まだ詳細を開示したほうがよいと思う点もありました。

今後はよい意味での自己否定、すなわち今までの慣習を見直す取り組みをさらに推し進め、物事の本質を再度見きわめ、広い視野で時代の変化を捉えた市民の納得を得られる行政財政の実現をさらに推し進めていかれることを要望し、討論といたします。

■平成 26 年度決算に伴う市長からの市政報告より（趣旨）

平成 26 年度は、国の経済対策により、一部の企業の収益や雇用環境等に改善が見え始めたが、その一方で個人消費の弱さが続くなど、景気回復に向け懸念が残る状況だった。このような中、引き続き、市財政の健全性の維持に努め、市が抱える諸課題に対しても、その取り組みを着実に進めてきた。歳入においては「モバイルレジ収納」を新たに導入し、納税者の利便性を図るなど、市税収入については前年度決算との比較で増額の内容となった。また、歳出では『住みよい、活気あるまちづくり』、『環境にやさしいまちづくり』、『福祉の行き渡ったまちづくり』、そして『教育力・地域力の向上』を図る様々な施策を実施し、これらの中でも待機児童の解消など子育て支援については、一層の充実を図ったところだ。平成 26 年度決算における財政指標は、財政健全化法に基づく各比率については、引き続き健全性のある内容となったが、児童福祉費等の扶助費や医療・介護に係る特別会計繰り出し金の増加等に伴い、経常収支比率は前年度との比較で数値が増加した。市財政については、様々な施策に取り組む中においても積立基金が増加するなど、全体的に健全性が維持されているとの認識だが、社会保障関係経費の増加等が今後も見込まれる中、新たな課題への対応にあたっては市財政の厳しさが続くものと考えている。私としては、引き続き行政改革の取り組みを着実に実行し、持続性のある行財政運営の定着に努め、開かれた市政の中、市の活性化と市民サービスの向上を一層図ってまいりたいと考えている。

■平成 26 年度決算

※万単位 ※()内は前年度比

	【歳入≒収入】	【歳出≒支出】	
全会計	492 億 5,304 万円 (3.7%増)	474 億 6,905 万円 (3.6%増)	
一般会計	305 億 5,342 万円 (3.6%増)	293 億 3,895 万円 (4.2%増)	教育、福祉、医療、道路や公園の整備など、市の基本的なサービスを行う会計
特別会計	186 億 9,962 万円 (3.9%増)	181 億 3,010 万円 (2.7%増)	国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療、土地の区画整理、下水道事業の一般会計と区別する必要がある会計

■平成 26 年度一般会計歳入(≒収入)について

市税	123 億 1,955 万円	40.3%
使用料・手数料など	4 億 1,665 万円	1.4%
繰入金	4 億 1,775 万円	1.4%
国・都支出金・地方交付税など	134 億 2,066 万円	43.9%
市債	18 億 3,204 万円	6.0%
その他	21 億 4,676 万円	7.0%
合計	305 億 5,341 万円	100.0%

⇒ 家計が500万円だった場合に置き換えると

給料	¥2,015,000
パート収入	¥70,000
貯金の切り崩し	¥70,000
親からの援助	¥2,195,000
借入金	¥300,000
その他、財産売り払い、利子収入等	¥350,000
合計	¥5,000,000

■平成 26 年度一般会計歳出(≒支出)について

人件費	給料など人にかかる経費	42 億 8,530 万円	14.7%
扶助費	福祉や医療などにかかる経費	103 億 664 万円	35.2%
公債費	借金の返済にかかる経費	16 億 4,820 万円	5.6%
投資的経費	施設や後援・道路の整備にかかる経費	13 億 5,638 万円	4.6%
物件費	光熱水費や消耗品などにかかる経費	39 億 7,417 万円	13.6%
繰出金	特別会計へ支出する経費	34 億 8,609 万円	11.9%
積立金	貯金	11 億 8,786 万円	4.1%
その他	その他	30 億 696 万円	10.3%
合計		292 億 5,160 万円	100.0%

一般会計の 市民一人 あたりの 歳出は ¥339,771	¥49,946
※H27 年 4月1日の 住民基本台帳 人口 86,092人	¥119,600
	¥19,027
	¥15,629
	¥46,209
	¥40,433
	¥13,931
	¥34,996
	¥339,771

※歳出の性質別状況の数字については『地方財政状況調査』によるもので、そのルールにより8,734万2,000円が控除されています。よって、上記の一般会計の歳出合計額とは数字は一致しません。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なよう^{プロファイル}で知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／「人を活かす」経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。
顔の見える議員として、日々奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102